

5	小牧	小牧市立小牧南小学校	アキタ シオリ
			秋田 至織

分科会番号	8	分科会名	音楽教育
-------	---	------	------

研究題目

学びに向かう力を育む音楽科の授業を目指して
～6年「おぼろ月夜」の実践を通して～

1 はじめに

近年、児童の生活や、生活を営む社会の中には、様々な音や音楽が存在し、人々の生活に影響を与えている。生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成し、児童が自らそれらの音や音楽とかかわり、生活を豊かなものにしていくことが、音楽科の果たすべき明確な役割の一つではないだろうか。

小牧市音楽教育研究会では、これまで、仲間と共に表現や鑑賞をする楽しさを体験させることで、「学びに向かう力」を育むことに重点を置いた実践に取り組んできた。今年度は、プロセスを重視した指導を充実させ自己を振り返ることにより「学びに向かう力」を育むことを目標にしている。

本学級（6年生）の児童は、年度当初マスクを外すことに抵抗がある児童が多く、表情豊かに歌う姿があまり見られなかった。児童同士が関わり合って活動することを通して、だんだんと声を出して表現する姿が見られるようになってきた。しかし、1時間1時間を楽しむことはできているが、学んだことを次につなげ、関連づけて学ぶことや、自ら課題を見つけ、学び深めていくまでには至らなかった。児童同士が互いの視点を共有するなどの集団的なメタ認知能力を高め、学びの往還をさせることが「学びに向かう力」を高めていくと考え、授業づくりに取り組んだ。

2 めざす児童の姿

自己を振り返ることで学びをつなぎ、
仲間と共に学び合う中で新たな気づきや課題を見つけ深めることができる児童

以下に課題をまとめた。

【課題1：仲間と共に学び合う中で新たな気づきと出会うために、児童主体の活動を設定する】

子どもたちが歌を歌うことを「楽しい」「自分たちの歌をよくしたい」「こんな思いを表現したい」など、教師主導ではなく、自ら意欲的に取り組むことができるよう、一人一人に課題や目標をもたせるための手だてを考えることが課題となる。

【課題2：学びをつなぐためのふり返しをする】

児童の学びを「点」で捉えるのではなく、「線」で結び捉えていくことができるように、断片的なふり返しではなく、授業での成果や課題を次の時間や単元に繋げていくためのふり返しをどのように行うかが課題となる。

3 研究の仮説

上記の課題に対して、以下の仮説を立てた。

【仮説】 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図りながら、主体的・協働的に音楽表現をする楽しさを体験させ、自己の学びを振り返り次の学びへの見通しをもたせることで、「学びに向かう力」を育み高めていくことができるだろう。

4 研究計画

【1 児童主体の活動を通して、曲にふさわしい表現の工夫を目指す】

グループ活動を積極的に取り入れ、児童同士が関わりながら表現活動をすることで教師主導でなく、その時間に自分たちで課題を見つけ、目標を立てて取り組むことが大切だと考えた。互いに歌声を聴き合ったり、タブレット端末の録音機能も活用したりしながら、自分たちの声を客観的に聴き、どこをどうすればよりよくなるか言語活動を取り入れることで、さらに深い表現活動になるかを検証する。

【2 場の設定とふり返しを通して学習活動の見通しをもたせる】

題材を「つかむ場」「つくる場」「聴き合う場」「つなぐ場」の4つの場で構成し進めることで、音楽の見方・考え方を働かせながら段階的に資質・能力を育むことができると考える。単元で1枚にしたふり返し用紙に、本時の目標や課題に対して自分が次時の自分へバトンをつなぐような「自分のためのふり返し」を意識して継続して書かせることで、1時間1時間や単元と単元の学びを往還させ、自ら課題を見つけ深めることで、音楽の楽しさ、良さに気付いたり、次への意欲を高めたりすることができるかを検証する。

5 実践と考察

(1) 小学6年生『おぼろ月夜』

単元：にっぽんのうた みんなのうた

単元目標：聴いている人の心の中に情景が広がるような歌を歌おう

第1時 詩から情景を想像したり、楽譜から分かることを話したりする 「つかむ場」

第2時 おぼろ月夜の情景の美しさが伝わるように工夫して歌う 「つくる場」「聴き合う場」

第3時 グループ発表会をする 「聴き合う場」「つなぐ場」

<具体的な手だて>

- ① ふり返し用紙を単元で一枚にし、1時間1時間のふり返しと単元終わりのふり返しを書かせ、1枚で自分の学びが分かるようにする。
- ② 表現の工夫を考えさせるために、グループで歌詞から情景や気持ちを考え表現につなげられるようにする。
- ③ タブレット端末の録音機器を活用し、自分たちの歌声を客観的に聴くことでそこから課題を見つけ仲間と共に探究できるようにする。

時	活動内容	形態
第1時「つかむ場」	課題：①詩から情景を想像しよう ②楽譜から気づくことを話そう	
	<p>① 歌詞から曲の情景を思い浮かべる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 詩を朗読する。 思い浮かべたことをワークシートに書き込む。 <p>春風ってあるから季節は春かな？</p> <p>「菜の花？」「かすみ？」言葉の意味が分からないな。</p> <p>想像したことをイラストに描いたよ。</p> <p>1日の終わりのさみしい感じがするが、ほっとする感じもある。</p>	4人グループ
	<p>② 楽譜から気づくことを話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 拍、リズム、音の流れを知る。 <p>3拍子ということが分かったよ。</p> <p>音符が上に上がったり下がったり山のようにになっている。</p> <p>音符が同じということは、リズムが同じってことかな。</p>	4人グループ
	<p>③ グループで話したことを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の写真を見る。 <p>わぁ～想像以上に美しい。</p> <p>思っていたより菜の花がたくさんあった。</p> <p>ぼわ～とした感じがする。かすみ分かった。</p>	一斉
<p>④ 本時のふり返りを書く。</p> <p>今回の学び（考えたこと、友達の意見を聴いて深まったことなど） おぼろ月の一番は春で、菜の花に囲まれながらぼんやりとした赤色の山を見ていることがわかった。みんなの話から1日の終わりの寂しさも感じられた。</p> <p>成果・課題・次の目標 詩の意味を考えることで詩が表現しようとしている景色がわかりました。次は、この景色を聴いている人が想像でき、景色のバトンがつながるような歌を歌えるようにしていきたいです。</p>	個人	

課題：おぼろ月夜の情景の美しさが伝わるように工夫して歌おう。

① 前時に全員で歌った「おぼろ月夜」を聴く。

一斉

前の授業で想像した情景は想像できなかった。

元気だから夕日とか伝わらなかった。

声がそろってないし、地声みたい。



② 情景が伝わる歌になるようにグループで練習する。

4人グループ

- ・ 何度も歌う。
- ・ タブレット端末で楽譜を表示し、メモ程度にどう歌いたいかを書き込む。

録音して、自分たちの歌を確認しよう。

もっとなめらかに歌いたいな。
優しく歌うときれいになるのかな？



高い音のとき、きれいな裏声を出したいな～、声をそろえるのは難しいね。

③ グループでどんな練習をしたのかを共有する。

一斉

ただ大きな声で歌うだけでなく、きれいで響く声で歌う練習していた。

優しく、なめらかできれいに歌う練習。

強弱の工夫も考えてみたよ。優しく歌いたいからメゾピアノにしたよ。



④ もう一度グループ練習をする。

4人グループ

- ・ 他のグループの練習を自分たちの練習に生かす。
- ・ 最後に録音を提出する。

春風のところをクレシェンドにして、風らしさを出したいな。

音が山のようになっているから、それに合わせてクレシェンド付けるのはどう？

最後は、少しさみしい感じがするからピアノで終わりたいな。



第2時「つくる場」「聴き合う場」

	<p>⑤ 本時のふり返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 録音をみんなで聴く。 <p>高い音が優しい声になっていて、きれいな情景が伝わってきました。</p> <p>最後がだんだん小さくなっていて1日の終わりを感じました。</p> <p>今回の学び（考えたこと、友達の意見を聴いて深まったこと など）情景の美しさを伝えるように考えたときに、強弱とかでどこから音が大きくなったり小さくなったりしたりしました。例えばはるかぜのところでもみたいに歌ったりすること。</p> <p>成果・課題・次の目標 強弱とかはうまく歌えられるけれど、まだ録音して聞いたりしたときにも、あんまり気持ちがこもっていないように感じたから、次の練習の時には強弱よりも気持ちを込めて歌いたいです。</p>	一斉 個人
第3時「聴き合う場」「つながる場」	<p>課題：聴いている人に情景を伝えよう。</p>	
	<p>① グループ練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時のふり返りを読んで始める。 	4人グループ
	<p>② 1グループずつ発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 聴く人は、「すてきだな」と思ったことをメモする。 <p>〇〇さんの表情が良かった。</p> <p>「やまのは」のクレシェンドを感じた。</p>	4人グループ
<p>③ 発表のふり返りと単元のふり返りを書く。</p> <p>単元のふり返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 聴いている人に情景が伝わるようにするためには、自分が歌詞から情景を思い浮かべることが大切だと思った。強弱や表情で気持ちを伝えられることが分かった。次の歌うときも歌詞の意味をよく考えて歌いたいと思った。 <p>今回の学び</p> <ul style="list-style-type: none"> きれいな情景が伝わるように優しく歌い始めるようにした。みんなの声がそろって気持ちよかった。一番初めに歌ったときよりきれいな情景が伝わる歌になったと思う。 	個人	

(2) 考察

「1 児童主体の活動を通して、曲にふさわしい表現の工夫を目指す」について

<成果>

- 「つかむ場」では、グループで言葉の意味をタブレットで調べたり、ワークシートにある「季節・時間・情景・気持ち」を基に考えたりと想像を深めることができた。言葉の意味を想像しながらイラストを描く児童もいて、想像することが苦手な児童にとって助けとなった。また、音符

のみの楽譜を提示することで、普段何気なく耳で覚えて歌っている児童も、楽譜に注目することができた。拍子やリズム、音程という音楽の要素を使って共有することもできた。

- ・ 「つくる場」「聴き合う場」では、最初に前時での歌を聴き、児童が「もっときれいに歌いたい」や「声をそろえたい」という課題を見つけ、タブレット端末の録音機能やメトロノーム機能を使って工夫して練習する様子が見られた。歌を録音することで、客観的に自分たちの歌声を聴き「もっと〇〇したい」という目標をもって練習に取り組むことができた。集団におけるメタ認知により変容が分かり自信をもって歌えるようになった。

<課題>

- ・ 「つかむ場」では、詩から情景を想像させたが、身近にない景色だったので、教科書の写真を見せたときに「想像以上だ」という反応だった。想像を膨らませるのに時間がかかってしまったので、早めに写真を見せる方がよかった。写真を見せて、どんな表現をしたいのかを考える方に時間をかけた方がよかった。
- ・ 「つくる場」「聴き合う場」では、タブレット端末を使って自分たちの歌を聴いていたが他のグループの歌を聴き合いアドバイスし合いながら練習を進められるとよかった。自分のグループ以外の人の意見を聞くことで他の気づきや工夫ができたと思う。

【2 場の設定とふり返りを通して学習活動の見通しをもたせる】について

<成果>

- ・ 場の設定を明確にすることで、この授業で何をすべきかという見通しをもって学習に取り組むことができた。
- ・ ふり返りを児童が共有したり、教師が価値付けしたりすることを通して、内容が深まっていた。
- ・ 単元で1枚にしたふり返り用紙を授業の初めに確認することで、これまでの学びをつなげて表現の工夫を考えることができた。

<課題>

- ・ 教師側の働きかけで単元同士のつながりを意識できたが、児童のふり返りから単元同士のつながりを意識した往還した学びの記述はあまり見られなかった。題材が変わると児童の中でもつながりが途切れてしまっているように感じた。

6 おわりに

タブレット端末の録音機能を活用し歌声を客観的に聴くことで、メタ認知が進み自分たちで課題を見つけ解決に向けて前向きに取り組むことができるようになってきた。また、1単元の中に「つかむ場」「つくる場」「聴き合う場」「つなぐ場」を設定することで、児童に見通しをもたせて取り組ませることができた。そして、ふり返り用紙を単元で1枚にまとめることで、前時とのつながりを感じながら学習を進められた。学びの変容も分かりやすく、児童の自信ややる気を感じられた。今後も協働とふり返りで学びをつなぎ、「学びに向かう力」を育てていきたい。